

# つくる。 幸せ色あふれる 相模原

## 未来の幸せは市民が決める



### 大規模開発は一度立ち止まって見直し。 市民による市民のための使い方を市民の力で

たとえば、**相模総合補給廠一部返還地**は市民の大切な財産です。今後の利活用については、市民が憩い、賑わう空間として、スポーツ・市民文化などを中心に、市民参加型コンペなどの開かれた手法を検討し、市民と熟慮したうえで利用方針を決めていきます。また、大前提となる小田急多摩線延伸も進めてまいります。

### 「こんにちは、市長です」「こんばんは、市長です」 市長室の扉をなくし、新しい対話の場をつくります

課題山積の市政を進める上で、**市民の皆さんとの対話と相互理解**は何よりも大切です。市長室の扉をなくし誰にも開かれた市長室とします。そして、市長が月一回以上各区を回り、ランチを食べながら、お仕事の後などに、皆さんと話してできる時間、場所まで出かけていく「こんにちは、市長です」「こんばんは、市長です」(仮称)の新しい対話の場をつくります。

### 【もとむら賢太郎氏のプロフィール】

- 昭和45年(1970年)4月生まれ。  
相模台幼稚園・桜台小・相模台中・県立麻溝台高・青山学院大卒。
- 本村和喜参議院議員秘書、東鉄工業(株)を経て、**藤井裕久衆議院議員秘書**。
- 平成15年神奈川県議選に選挙区最年少で初当選、平成19年にトップの得票で再選。
- 平成21年衆議院議員初当選。平成24年総選挙で惜敗。平成26年12月衆議院議員再選。
- 民進党国対副委員長、党神奈川県連代表、衆議院文部科学委員会理事、国土交通委員会理事、議院運営委員会理事などを歴任。
- 平成29年10月3期目当選。
- 平成30年5月より無所属議員となる。現在、衆議院国土交通委員、災害対策特別委員として活動。

# 賢もとむら 太郎

さんに、**相模原の未来**  
について聞きました。



発行:相模原から日本を変える!会

〒252-0332 相模原市南区西大沼2-52-13 TEL 042-851-6152 FAX 042-851-6162

# 1 シニア世代の“移動”をもっと自由に、“広がる活動”でもっと幸せに

元気シニアの行動をより楽しく、自由に、まちの中でイキイキと活動する。そのために市内バスの**敬老パス**を導入します(一部自己負担)。シニア層利用が増えることで路線が維持・拡充されます。大規模な移動実態調査を行い市内交通網を見直します。



# 幸せ色あふれる相模原 10のシナリオ



# 2 子どもたちに“わかった!”の幸せを

全国学力テストで相模原市は政令指定都市のなかでも最低レベルという残念な状況が続いています。内実は学校の授業を理解・定着していないまま、置き去りにされている子どもがいることが本当の問題なのです。この問題を解決するために**習熟度に合わせた授業**の導入が必要だと考えます。



# 4 “公園を再生”してのびのび遊べる幸せを

あれはダメ、これもやっちゃダメのダメダメ公園から、泥まみれ、芝生で転がり、丸太小屋(市内産)の中で、全力で遊べる**全天候型ののびのび公園**をつくります。様々な世代がお互いのルールの中で、みんなが居心地の良い公園=素敵空間に変えていきます。

# 6 科学技術に強い“人財”を育て世界を幸せに

相模原市には宇宙産業やロボット産業の研究開発に携わっている方、また、中小企業にも高度なものづくり技術を有する人財が沢山います。将来の地域経済を支え、けん引していく人財を相模原市が責任を持って育てるため、科学技術に強い**市立高校を開校**します。県立高校の再編に合わせ準備を進めます。



# 9 “働き続ける”幸せ、“地域でつながる”幸せ

地域経済に上手くマッチングできていなかった優れた経験値や知的資源を結集して**シニア人財バンク**を創設します。また空き家を活用し、身近な地域の中でコミュニティーカフェなどの居場所づくりをすすめ、地域活動への参加を後押しします。人生100年時代にふさわしい生きがいと社会の発展に寄与する活動を応援します。



# 3 “安全・安心”の都市は幸せのきほん

相模原市は広い。各区・各地区によって想定される災害の種類や影響は異なります。そこで、現在、年1回行われている市総合防災訓練を、すべての小中学校で地域・企業を巻き込んだ**地区防災訓練を充実**させ年複数回を実施する支援を行います。さらに備蓄計画を見直し分散型備蓄を進め地域防災力を高めます。



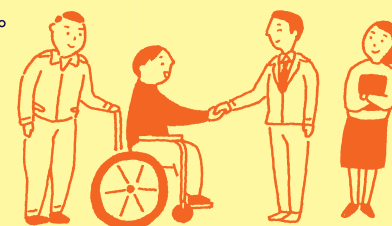
# 5 “スポーツ・文化”を通して市民が誇りを持てる幸せ

地域で活躍する**スポーツチームはまちに元気とプライド**をもたらします。サッカーSC相模原やアメフト相模原ライズなど、今後も活躍するチームを市民あげて応援する枠組みをつくります。藤野地区が合併以前から取り組む文化・芸術の蓄積は、相模原市民が国内外に誇るべき宝物です。伝承を支援し、さらなる振興のため子どもたちへ「**地域文化教育**」に注力します。文化を通じた市内交流事業を促進します。



# 7 “障がい者”と共に暮らす幸せ

**障がい者雇用日本一**を目指します。遺憾なことに相模原市役所の障がい者雇用率すら水増しをしていました。本当の共生社会の実現のために事業所と障がい者のマッチング人材と機能を充実させます。多様な働き方を創出し、ミスマッチによる短期就労ではなく、働き続けられ、自立する雇用へ取組を行います。まず市の意識を変え、仕組みを変え、行動を変えます。



# 10 “子育て”しながら働く幸せ

民間と連携したテレワーク拠点を市内各地に整備します。相模原市の昼夜間人口は政令市でも最低レベルで、市民が市内で働いていません。最寄の駅近くのシェアオフィスで働き、子どもは近くの保育園・幼稚園で学ぶ。そんな職住育が家の近くで完結する柔軟な働き方の**相模原スタイル**を実現します。



# HAPPY SAGAMIHARA